

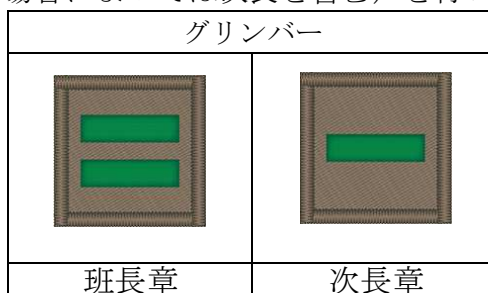


技能章・研究ノートについて  
(挑戦するスカウトへ)



## I 活動について

1. ボーイ隊における活動の基本は、班活動です。
2. 班の活動は、班長が班会議を行い、そこで班活動の計画をし、班長を中心に、次長が班長を助けながら班活動を行います。班長不在のときは次長が代理します。班会議で決まったことや班活動について、グリーンバー会議を通じて、隊長へ報告します。
3. グリーンバーである班長が、その名誉を保って班活動を行うためにグリーンバー訓練（班長訓練、場合によっては次長を含む）を行います



4. グリーンバー会議（班長会議：場合によっては次長を含む）では、隊の年間計画や隊の月ごとの活動を決めたり、進級の承認（名誉会議）を行ったりします。グリーンバー会議で決まった事柄など、内容を班長は班へ持ち帰り、必要に応じて班員へ伝達するため、班会議や班訓練を行います。  
もちろん、隊や隊員の名誉のために、永遠に秘密にしなければならないこともあります。その場合は、グリーンバー会議のメンバーや隊長以外には話してはならず、例え親しい友人であっても話してはならないのです。
5. グリーンバー会議や訓練は、上級班長が行います（上級班長を任命していない場合は隊長が行います。以下、同様）。隊長と相談しながら、上級班長は、よく班長を訓練し、班長の班活動を支援し、ときには班内のトラブルなどの相談に応じ、その解決の手助けを行います。



6. 隊の活動は、上級班長が中心となって行います。上級班長としての役割を果たすため、上級班長は、隊長・副長や隊付に相談や助力を求めます。上級班長がその役割を果たすことによって、隊のスカウト全員が楽しく面白いと感じながら活動できるようになります。
7. 上級班長や隊付は、必要に応じ、班長会議に諮ったうえで、指導力を有する1級以上のボーイ又はベンチャーのスカウトを、隊長がその任に任命します。隊付の役割は隊長が分掌した任に就きます。
8. 班長は班員によって選ばれたスカウトを、次長は班長によって選ばれたスカウトを、班長会議に諮ったうえで、隊長が任命します。
9. これを読んでいる君がベンチャースカウトなら、ボーイ隊で経験してきたことを活用し、それぞれの活動の場で、積極的に役を担い、誰に言われることなく、その責任を自覚し、全うしていることでしょう。

## II 進歩（進級制度と技能章）について

1. 君には、個性があり、性格があり、能力もあります。それがあある場面では長所として発揮され、別のある場面では短所として表れてしまうことがあります。丁度、コインに表と裏があるように表れます。コインの裏をなくそうと、削っても、ねじ曲げてはいけません。君自身がこのことを気付く、長所として自ら伸ばし、短所として表れないよう、その努力をしてくれることを願います。
2. 君が、班長や上級班長または先輩であるなら、君自身について、すでに気が付いて、その努力をしていることと思います。  
君がそうであったように、君の班員または後輩も同じです。一人ひとり、個性があり、性格があり、能力もあります。それが長所として発揮されるよう、短所として表れないよう、上手にアドバイスしてあげよう。君が『ちかい』と『おきて』に従った適切な態度で行えば、最初は難しくても、徐々に君を信頼し、班員または後輩も君と同じように努力をするようになるでしょう。
3. 君は、班活動を楽しむことで、行うことによって様々な学びをしています。そのなかで得たスカウト精神や技能は、『そなえよつねに』し、『日日の善行』へ繋がっています。  
『日日の善行』は、君が『おきて』を実践しようと努力していれば、自然と行えることです。

君が、今日の集会へ参加することで、君も仲間も楽しんで活動できます。

君（仲間）が部活の大会などで集会を休まなければならなくなったとき、仲間はどうして欲しい（君はどうしてあげたらいいだろうか）？

班活動のなかで、君が『ちかい』と『おきて』に努めれば、班の仲間に対して『日日の善行』を行うことになります。同様に、家族のなかで、学校のなかで、地域社会のなかで、君が班活動のなかで修得したことが『日日の善行』として活かれます。

4. グリンバー訓練を通じて班長や次長に、班活動を通じて班員に、その精神や技能を、先輩から後輩へ伝えます。君が後輩であるなら、いつか先輩になります。君が先輩という立場なら、かつて後輩だったということです。

グリンバー訓練で行い→班活動で行い→隊活動で行い→日日の善行や奉仕→・・・

5. 進級の細目は、級によって異なります。進級すれば、前の級の内容をしなくていいと言うことではありません。班活動や隊活動のなかで、繰り返し行うことによって学び直す機会が、君を磨き、高めます。（後輩スカウトのためにも）  
例：2級の細目に三角巾で包帯をする内容があります。1級である班長は、初級である班員にその技能を教える必要があります。1級の班長はグリンバー訓練で行い、班集会で行います。初級のスカウトは、班集会で三角巾の訓練をするために、見習いスカウトの身体を借ります。見習いスカウトは、班集会で先輩を手伝いながら包帯を巻かれる体験をします（観て学ぶ）。  
これを毎年繰り返すと次のようになります。

体験して『知る』→訓練して『できる』→さらに腕を磨き『指導できる』→・・・

可能であれば、方法や内容、質量・軽重を変え、年に数回行えれば、より身に付きます。また、その技能を学ぶ機会が増え、進級の遅れ気味な班員や後輩にもチャンスを増やすことができます。

### Ⅲ 技能章・研究ノートについて

1. 松山地区では、これまで『技能章報告書』と題していました。  
進級規程の改定に際し、一部内容を変更し、『技能章・研究ノート』と改定します。
2. 活用の仕方は、隊長認定の技能章は、君の隊の隊長と相談してください。
3. 技能章審査員認定の技能章は、君の隊の隊長を通じて、技能章審査員（以下、審査員という）と相談してください。
4. 『技能章・研究ノート』とした理由について
  - ・ 審査の方法について、『実際にできる』ことの確認を、細目ごとに指定されている方法で、隊長認定の技能章なら隊長が、技能章審査員認定の技能章なら審査員が、行うからです。隊長や審査員によっては、『技能章・研究ノート』をその確認や補完のため、使用されることもあるでしょう。
  - ・ 技能章の修得は、君が、興味を持ち、努力し、そうして修得することで得た達成感や喜びが、君の自信となり、誇りとなることをねらいとしています。
  - ・ 審査に合格するためには、君自身が、審査の細目をよく読み、何をどうすれば良いかを考え、隊長や審査員と相談し、取組んでください。
  - ・ 審査の基準は、それぞれ技能章の細目にある通りですが、修得した技能章が真に価値あるものとなるかは、君自身の努力次第です。  
一人ひとり、性格も違えば、記憶力も違い、体格や体力も違う、生活環境（部活や塾など）も様々です。  
他のスカウトと比べるのではなく、君がどう努力したかが大事なことで、君の熱意と工夫次第です。（集会に仮にあと10分しかないとしても駆け付ける。部活と集会が重なり出席できなかったとき、自分で調べたり、また訓練したりする。不器用であったり、記憶するのが苦手であるなら、事前にノートにまとめることや作品を作って持参する、人一倍コツコツ練習する。同じように挑戦している仲間を助けることなど）  
君自身への挑戦と考えてください。審査の基準は、細目にある通りですが、真の基準は君の心のうちにあります。  
君の挑戦が、『ちかい』と『おきて』の実践に努めることであることを願います。
5. 『技能章・研究ノート』の活用について
  - ・ 技能章の細目のほか、君が活動のなかで、観たり、聴いたり、体験したり、感じたり、調べたりしたことがあるなら、おおいにページを増やして、君にとってより良い資料となるよう工夫してみてください。  
(下記以外にももっと良い活用法があるかも知れません。)
  - 自分で目次を作る。  
ページは、細目の番号がよいかと思います。  
例：野営章細目1～9まであり、細目7は（1）～（6）まであります。  
ページを 7－（1）－1、7－（2）－1、7－（2）－2 としてもいいでしょう。また、7に関連するが細目にはない事柄なら 7－（7）という具合に自分で増やしてもよいでしょう。  
ボリュームによっては、該当ページの箇所別添1（〇〇）、別添2（△△）と記載して、巻末に別添1（〇〇）、別添2（△△）の記した資料を添付してもよいでしょう。
  - パソコン操作に長けているなら、家庭で研究した事柄をパソコンでまとめたのもよいでしょう。  
活動時に得た資料などをコピーして貼り付けたのもよいでしょう。  
普段の集会から持ち歩き、メモ代わりに手書きで書き込んでいくのもよいでしょう。
  - 参考にした資料があれば出典等を明記するとよいでしょう。  
書籍なら、本の題名・著者・出版社・出版発行年月日・ページなど  
(後日、他のスカウトの研究にも役立ちますし、その本が廃版となっても、著者の他の同様の書籍を探すこともできます。)  
インターネットでも同様ですが、URLや検索時のキーワードなども後日、役に立ちます。
  - 体験しての感想や感動、驚きや発見、観察したことや失敗談があれば、ぜひ、場所・日付・時間と一緒に活動した仲間など、記録しておくともよいでしょう。
  - 活動時、余裕があり、写真などを撮っているなら、写真を貼っておくのもよいでしょう。また、スケッチなどもよいでしょう。

## IV ちかいとおきての実践

- ・ 技能章に挑戦して修得した技能は、君の家族や学校の友人、スカウトの仲間、他の人々のため、君自身のため、ぜひ活用してください。
- ・ 修得した技能によっては、君の生涯の趣味となり、人生を豊かにしてくれるでしょう。また、将来の職業で役立つもの、自分の特性を知り職業を選択するうえでヒントを与えてくれるものもあるでしょう。
- ・ 技能章の修得後、その技能の一つでも二つでも、それが他の人々や社会、君自身にとって、有意義なものであるよう、さらに知識を深め・広め、磨きをかけてくれることを願います。
  - ・ 君の修得した技能をぜひ後輩に伝えてください。

### 『 ち かい 』

私は 名誉にかけて 次の三条の実行をちかいます

一. 神（仏）と国とに誠を尽くし おきてを守ります

二. いつも 他の人々を助けます

三. 身体を強くし、心をすこやかに徳を養います

### 『 お き て 』

#### 1. スカウトは 誠実である

スカウトは信頼される人になります。

真心をこめて（込めて）、自分のつとめ（務め）を果し、名誉を保つ努力をします。

#### 2. スカウトは 友情にあつい

スカウトは兄弟として仲よく助け合います。

すべての人を友とし、相手の立場や、考え方を尊重し、思いやりのある人になります。

#### 3. スカウトは 礼儀正しい

スカウトは、規律正しい生活をし、目上の人を敬います。

言葉づかい（遣い）や服装に気をつけ（付け）、行いを正しくします。

#### 4. スカウトは 親切である

スカウトは、すべての人の力になります。

幼いもの、お年寄り、体の不自由な人をいたわり（労わる）、動植物にもやさしく（優しく）します。

#### 5. スカウトは 快活である

スカウトは、明るく、朗らかに、いつも笑顔でいます。

不平不満を言わず、元気よく、進んでものごとを行います。

#### 6. スカウトは 質素である

スカウトは、物や時間を大切にします。

むだ（無駄）をはぶき（省き）、ぜいたく（贅沢）をせず、役立つものは活用します。

#### 7. スカウトは 勇敢である

スカウトは、勇気をもって、正しく行動します。

どんな困難なことがあってもくじけず（挫けず）に、新しい道を切り開きます。

#### 8. スカウトは 感謝の心を持つ

スカウトは、信仰をあつくし、自然と社会の恵みに感謝します。

お礼の心で、自然をいつくしみ（慈しみ）、社会に奉仕します。

### 『 モ ッ ト ー 』

そなえよつねに

### 『 スローガン 』

日日の善行